

Safety Data Sheet

安全データシート

1.製品及び会社情報

製品名	白アリスーパーV
種類	木材防腐・防虫剤
推奨用途	木工用その他
会社名	株式会社 吉田製油所
郵便番号&住所	〒110-0005 東京都台東区上野3-22-8 新ジイドビル
担当部門	川崎工場 品質管理部
担当者	品質管理部の長
電話	044-288-5522 (月~金, 9:00a.m.-5:00p.m.)
Fax	044-277-7721
作成日	初版 2018年10月2日 2版 2019年6月19日 3版 2019年9月27日 4版 2022年2月3日
Web Address	https://www.ysds.co.jp/

2.危険有害性の要約

化学品の GHS 分類

物理化学的危険性

引火性液体	区分3
-------	-----

健康有害性

皮膚腐食性/刺激性	区分2
発がん性	区分2
生殖毒性	区分1
特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	区分3
誤えん有害性	区分1

環境有害性

水生環境有害性 短期 (急性)	区分2
水生環境有害性 長期 (慢性)	区分2

GHS ラベル要素

注意喚起語	危険
GHS シンボル	

危険有害性情報

H226	引火性液体及び蒸気
H315	皮膚刺激
H351	発がんのおそれの疑い
H335	呼吸器への刺激のおそれ
H336	眠気又はめまいのおそれ
H360	生殖能又は胎児への悪影響のおそれ
H304	飲み込んで気道に侵入すると生命に危険のおそれ
H401	水生生物に毒性

H411	長期継続的影響によって水生生物に毒性
------	--------------------

安全対策の注意書き

P210	熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。
P233	容器を密閉しておくこと。
P235	涼しいところに置くこと。
P240	容器を接地しアースをとること。
P241	防爆型の電気機器、換気装置、照明機器などを使用すること。
P242	火花を発生させない工具を使用すること。
P243	静電気放電に対する予防措置を講ずること。
P261	ガス/ミスト/蒸気/スプレーなどの吸入を避けること。
P264	取扱い後は手や顔等をよく洗うこと。
P271	屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。
P273	環境への放出を避けること。
P280	保護手袋/保護衣/保護眼鏡、保護面を着用すること。

応急処置の注意書き

P331	無理に吐かせないこと。
P301+P316	飲み込んだ場合：すぐに救急の医療処置を受けること。
P302+P352	皮膚に付着した場合：多量の水と石鹼で洗うこと。
P303+P361+P353	皮膚(又は髪)に付着した場合：直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を水又はシャワーで洗うこと。
P304+P340	吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
P308+P316	ばく露又はばく露の懸念がある場合：すぐに救急の医療処置を受けること。
P332+P317	皮膚刺激が生じた場合：医療処置を受けること。
P362+P364	汚染された衣類を直ちにすべて脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。
P370+P378	火災の場合：消火するために泡（耐アルコール性）消火剤、粉末消火剤、二酸化炭素（CO ₂ ）を使用すること。

保管（貯蔵）の注意書き

P403+P235	換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。
P405	施錠して保管すること。

廃棄の注意書き

P501	内容物又は容器を国、都道府県、又は市町村の規則に従って廃棄すること。
------	------------------------------------

以下の注意事項に関しては GHS 分類結果より、GHS ラベル要素は非該当であるが、取扱い時には注意すること

P102	子供の手の届かないところに置くこと。
P260	ミスト、スプレー等を吸入しないこと。
P263	妊娠中、授乳期中は接触を避けること。
P270	この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。
P404	密閉容器に保管すること。
P410	日光から遮断すること。（必ず 40℃以上にならない場所で保管すること）
P305+P351+P338	眼に入った場合、すぐに水で数分間洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
P337+P317	眼の刺激が続く場合、医療処置を受けること。

3.組成、成分情報

単一/混合物の区分 : 混合物

成分	CAS No.	含有量
シラフルオフエン	105024-66-6	0.161%
ヘキサコナゾール	94361-06-5	0.3%
灯油	8008-20-6	85~90%
キシレン	1330-20-7	0.8~0.9%
エチルベンゼン	100-41-4	0.5~0.6%
1, 2, 4-トリメチルベンゼン	95-63-6	1.4~1.5%
2-(2-ブトキシエトキシ)エタノール	112-34-5	4.0~5.0%
香料その他	—	残

4. 応急処置

以下のいかなる場合においても、応急処置を速やかに行い、必ず医師の診断を受けること。

吸入した場合	ミスト、スプレー等を吸い込んで気分が悪くなった場合には、空気の清浄な場所で安静にする。異常を感じた場合には医師の手当てを受ける。
皮膚に付着した場合	汚染された衣服を速やかに脱ぐ。汚染された衣服を再使用する場合には、洗濯等で汚れを綺麗に落としてから使用する。外観に変化がある場合、又は痛みが続く場合には、速やかに医師の手当てを受ける。
眼に入った場合	直ちに清浄な水で洗浄する。コンタクトレンズを使用している場合は、外すことが可能であれば、取り除いて洗浄する。異物感が眼に残るようであれば、速やかに医師の手当てを受ける。
飲み込んだ場合	誤って飲み込んだ場合には、口の中をよくすすぎ、直ちに医師の診断を受ける。気道に入ると化学性肺炎のおそれ。無理に吐かせてはいけない。
応急処置をする者の保護に必要な注意事項	救助を行う者が有害物質等に触れないように手袋、ゴーグル、マスク等の保護具を着用する。汚染された場合には、すぐに衣類や保護具を取り除く。

5. 火災時の処理

適切な消火剤	泡（耐アルコール性）消火剤、粉末消火剤、二酸化炭素（CO ₂ ）
使ってはならない消火剤	棒状水
火災時の特定の危険有害性	燃焼すると一酸化炭素を発生させる可能性有。
特定の消火方法	消防隊に火災の場所と危険有害性を伝える。 避難誘導を速やかに行う。 適切な遮断のある風上の安全な距離から消火する。 可能な場合、容器や可燃性の製品等を周囲から素早く取り除く。 容器や周囲の設備等に散水をして、出来る限り冷却する。 安全な場合には、火災の危険が排除されるまで、電気機器のスイッチを切る。
消火を行う者の保護	必ず保護具（呼吸器系の保護具、化学防護服、手袋、長靴、眼鏡、マスク等）を着用し、製品の吸入や煙との接触を避けるため、風上から作業する。

6.漏出時の処置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時の措置	ミスト、スプレーの吸入及び、皮膚と眼の接触を避ける。
	作業の際には、必ず保護具を着用する。
	関係者以外は立ち入り禁止とする。
環境に対する注意処置	河川などに排出され、環境に影響を起こさないように注意する。
	水で洗い流す必要がある場合には、乾燥砂、土、その他の不燃性のものを用意し、排水をそれに吸収させる。吸収させたものは法規に基づいて処理を行う。
封じ込め及び浄化の方法及び機材	側溝等に流入する場合は、乾燥砂等でせき止め、飛散物を回収する。少量の場合、集めた飛散物は処理するまで密閉できる容器に回収。多量の場合には、盛り土等で囲って流出を防ぎ、安全な場所まで誘導してから回収。火気には充分注意する事。
二次災害の防止策	着火源となるものは、速やかに取り除く。
	内容物が飛散した場合には、人が近づかないように指示をし、飛散したものを掃き集め、法規に基づいた処理を行う。
	集めた飛散物は、処理するまで密閉できる容器に回収し、安全な場所に移す。
	漏出物の上をむやみに歩かないように、ロープ等で立入りできないように配慮する。

7.取扱い及び保管上の注意

技術的対策	労働安全衛生法、消防法などの関連法規に準拠して作業する。
	本剤に記載されている注意事項、使用方法等もよく読み、それに従った取り扱いを行う。
	呼吸器官の弱い人、アレルギー症状やかぶれの起きやすい人、病人、妊婦、乳幼児等がいる場合には絶対に使用しない。
	容器は、その都度密栓する。一度開封したものは、出来るだけ早く使い切る。
	製品を取り扱う時に使用するすべての装置は、接地しておく必要がある。また装置はすべて防爆型を使用する。
	取扱い場所の近くに、洗眼及び身体を洗浄するための設備を設置する。
局所排気・全体排気	密閉された場所における作業には、十分な局所排気装置を付け、適切な保護具をつけて作業する。
安全取扱注意事項	子供の手の届かない場所に保管する。
	火気、直射日光及び湿気を避け、飲食物、食器類、飼料等とは区別し保管する。
	使用後の容器は、各自治体の廃棄方法に従い破棄する。
	容器を転倒、落下させる、引きずるまたは容器に衝撃を加える等の粗暴な取り扱いをしない。
	飲み込みを避ける。
	取扱い後はよく手を洗う。
	皮膚との接触を避ける。
	粉塵の吸入を避ける。
熱源、火気から遠ざける。	
静電気対策を実施する。	
適切な保管条件	直射日光を避け、火気、放電、高温物から遠ざけて保管する。
	火気に注意する。
	通気の良い、日陰の場所に保管する。
安全な容器包装材料	本容器以外の容器は使用できない。保管の際は、必ず密封する。

8.曝露防止及び人に対する保護処置

<製品として>

管理濃度	: 未設定
許容濃度	
日本産業衛生学会	: 未設定
ACGIH	: 未設定

<灯油>

管理濃度	: 未設定
許容濃度	
日本産業衛生学会	: 3 mg/m ³
ACGIH	: 200 mg/m ³ (2002 TWA)

<キシレン>

管理濃度	: 未設定
許容濃度	
日本産業衛生学会	: 50ppm
ACGIH	: 100ppm (2002 TWA)

<エチルベンゼン>

管理濃度	: 未設定
許容濃度	
日本産業衛生学会	: 50ppm
ACGIH	: 20ppm (2002 TWA)

保護具

呼吸器の保護具	: 農薬用のマスク、有機溶剤用のマスク等
手の保護具	: 保護手袋
眼の保護具	: ゴーグル、保護メガネ
身体の保護具	: 保護服、保護帽、安全靴等

衛生対策 : 取扱いの際に、必ず保護具を着用する。

設備対策 : 取扱いについては、できるだけ密閉された装置、機器または局所排気装置を使用する。取扱場所の近くに、緊急用の洗眼設備及びシャワーを必ず設ける。

9.物理及び化学的性質

物理状態	油状液体	
色	クリア、オレンジ	
臭い	溶剤臭	
融点/凝固点	データなし	
沸点/初溜点	154℃	
可燃性	引火性あり	
爆発限界	下限 0.6%	上限 6.0%
引火点	41℃	
自然発火温度	240℃(推定)	
分解温度	データなし	
pH	データなし	
動粘度	≤20.5mm ² /s (40℃)	
溶解性	水に不溶、溶剤に容易に溶ける	
n-オクタノール/水分配係数(log 値)	データなし	
蒸気圧	データなし	

密度	0.798 (25/4°C)
相対ガス密度	データなし
粒子特性	データなし

10.安定性及び反応性

反応性	: 通常の保管下では反応性は特に心配ない。
化学的安定性	: 通常の保管下では安定と考えられる。
危険有害反応可能性	: 強酸化剤との接触を避ける。
避けるべき条件	: 静電放電、衝撃、振動などを避ける。
混触危険物質	: 強酸類、アルカリ類、ハロゲン類、酸化性物質と接触しないように注意する。
危険有害な分解生成物	: 煙、CO、CO ₂ 、SO _x 等のガスが生成

11.有害性情報

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	眼に入ると、刺激を与える可能性が有ります。
皮膚腐食性/刺激性	区分2の灯油を10%以上含んでいるため、混合物として皮膚刺激性が区分2となる。人への皮膚刺激性が認められている。
呼吸器感作性	データ不足の為、分類出来ない。
皮膚感作性	データ不足の為、分類出来ない。
生殖細胞変異原性	データ不足の為、分類出来ない。
発がん性	区分2の灯油を0.1%以上含んでいるため、混合物として発がん性が区分2となる。
生殖毒性	エチルベンゼンを0.3%以上含むことから区分1とした。マウス及びラットを使用した催奇形性試験にて、母体毒性を示さない用量で胎児の泌尿器奇形が見られる。エチルベンゼンは、灯油中に不純物として入っているキシレン中に含有していますが、灯油の生殖毒性に関しては、人への関連は今のところ不明となっている。
急性毒性	経口、経皮においては区分外である。吸入に関しては、蒸気を吸入することで、気道の刺激、めまい、頭痛、腹痛、下痢、吐き気、嘔吐、肺痛等の症状を報告している文献があるが、データが少ないため分類できていない。
急性毒性（経皮、吸入）	データ不足の為、分類出来ない。
特定標的臓器毒性（単回ばく露）	区分3の物質灯油を20%以上含んでいるため、区分3となる。気道刺激、麻酔作用がある。
特定標的臓器毒性（反復ばく露）	データ不足の為、分類出来ない。
誤えん有害性	区分1に該当する灯油を10%以上含んでおり、なおかつ動粘度が $\leq 20.5 \text{ mm}^2/\text{s}$ (40°C)である為、区分1となる

12.環境影響情報

水生環境有害性（急性）	原料 SDS のデータから魚毒性値を算出した結果、区分2となった。
水生環境有害性（長期間）	原料 SDS のデータから魚毒性値を算出した結果、急性毒性が区分1のものを含み、且つ生物蓄積性が有り、急速分解性がないことから毒性乗率を100として算出した結果、区分2となった。

生態毒性 (シラフル オフエン)	魚毒性	ニジマス LC ₅₀ (96H) 9.4mg/L 以上
	甲殻類	オオミジンコ EC ₅₀ (48H) 0.0012mg/L
	藻類	EC ₅₀ (48H) 0.00177mg/L 以上
	その他	急速分解性を示すデータ無し。生物蓄積性あり。

生態毒性 (シプロコ ナゾール)	魚毒性	Oncorhynchus mykiss LC ₅₀ (96H) 19mg/L 以上
	甲殻類	Daphnia magna EC ₅₀ (48H) 22mg/L
	藻類	Scenedesmus subspicatus EC ₅₀ (48H) 0.077mg/L 以上

13.廃棄上の注意

焼却処理の際は、珪藻土等に付着させて、開放型の焼却炉で少量ずつ焼却する。適切な設備での焼却をお願いします。洗浄した排水等も、地面や排水溝へそのまま流さず、必ず回収をして適切な処置をしてください。また、必要に応じて、有機溶剤用マスク等の保護具の着用をお願いします。焼却の際には廃棄物処理法の許可を受けた業者に処理を委託する。使用後の容器は、各地方自治体の廃棄方法に従い廃棄してください。

14.輸送上の注意

国連番号	1306
国連分類	3
容器等級	III
陸上輸送	消防法、労働安全衛生法に定められる運送方法に従う。
航空輸送	航空法に定めるところに従う。
海上輸送	船舶安全法に定めるところに従う。

15.適用法令

消防法	第四類第二石油類 非水溶性液体			
労働安全衛生法	名称などを表示し、 又は通知すべき危 険物及び有害物	表示・通知対象の有無	名称	政令番号 (別表第9)
		表示義務・通知義務	エチルベンゼン	70
		表示義務・通知義務	キシレン	136
		表示義務・通知義務	灯油	380
		表示義務・通知義務	トリメチルベンゼン	404
	表示義務・通知義務	2-(2-プトキシエトキシ)エタノール	224-3	
	特定化学物質	第二類物質	エチルベンゼン	
	その他	第二種有機溶剤等、引火性の物		
化学物資排出把握管 理促進法 (PRTR 法)	第1種 指定化学物質	エチルベンゼン、キシレン、1,2,4-トリメチルベンゼン		
	第2種 指定化学物質	ヘキサコナゾール		
大気汚染防止法	有害大気汚染物質			

16.その他の情報

危険・有害性の評価は現時点で入手出来る資料、データに基づいて作成しているが、記載のデータや評価に関しては、いかなる保証もなすものではない。また、注意事項は通常の実施を前提としたものであって、特別な取扱いをする場合には用途・用法および状況に適した安全対策を実施の上、取扱いには十分に注意すること。すべての化学製品には未知の危険性・有害性があり得るため、取扱いには細心の注意が必要である。使用者の責任において、安全な使用条件を設定すること。

引用文献

- ・ GHS 対応 SDS・ラベル作成ガイドブック改訂第2版 社団法人日本塗料工業会 平成24年7月発行
- ・ GHS 分類結果データベース 独立法人製品評価技術基盤機構、アクセス日：2016/7/14
- ・ Globally Harmonized System of Classification And Labelling Of Chemicals(GHS), Fifth revised edition. United Nations New York and Geneva,2013.
- ・ JIS Z 7253：2019 GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法ーラベル、作業場内の表示及び安全データシート（SDS）、日本規格協会 発行
- ・ JIS Z 7253：2019 GHSに基づく化学品の分類方法、日本規格協会 発行
- ・ 入手した他社原材料 SDS/MSDS